

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001042		
法人名	医療法人 輪生会		
事業所名	グループホーム 朝里		
所在地	小樽市朝里2丁目6番18号 (電話) 0134-54-0606		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年4月17日

【情報提供票より】(平成 20年3月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤16人, 非常勤2人, 常勤換算	11.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造サイディング 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	④ (40000 円)	無	暖房費(10～4月) 7,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () ⑤ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月13日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名	
要介護1	3名	要介護2	8名			
要介護3	5名	要介護4	2名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	70歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人輪生会朝里病院、医療法人みやび会整形外科病院、医療法人社団笠間歯科
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に程近く、海の見える高台に位置し、ホーム全体がゆったりとして明るく、落ち着いた快適感ある新築の施設です。近隣地にある母体医療法人との密な連携、ホーム内の衛生管理、栄養士による栄養管理と、利用者の健康、医療面での安心感ある暮らしをサポートしています。利用者は、介護度の低い人から高い人まで様々ですが、管理者始め職員の努力で、個性や思いを尊重する自立支援の実践に、個別性の高いケアプランに応じたきめ細かなサービス提供に努めており、家族の信頼に繋がっています。ホーム内の人間関係は良好で、利用者一人ひとりの個性が豊かに伝わってくる温かで家庭的な雰囲気があり、今後が期待されるホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善項目である利用者の生活歴を活かしたケアについては、利用者、家族からの聞き取りなどで情報を把握し、日常介護に活かしてきています。またそのほかの改善点については、利用者の状況、運営面での工夫をしながら、その改善に向けて取り組みを検討しています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、評価の意義、目的を理解しており、ホームの現状に真摯に向き合い、日常介護についての振り返りを行なっていますが、職員全体での検討時間の余裕がなく、管理者間での取り組みに留まっています。外部評価結果については職員間で検討、共有し、改善に向けての取り組みを期待します。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、現在までに3回開催されてきており、事業所の現状、地域での取り組みなどのテーマで協議されてきています。今後構成メンバーを拡大し、多様な意見交換を行ないながら、運営に活かす取り組みを期待します。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所、市町村及び国保連の苦情窓口の案内や、玄関フロアに「意見箱」が設置されていますが、苦情などは表出されていません。家族のホーム訪問は多くあり、利用者の暮らしや健康状態などを報告しながら、その時々家族の率直な意見や要望などが話し合われ、配慮ある家族との関係作りに努めています。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の人達とは、菜園の手伝いや漬物作り、地域の市場の人達とも気さくなお付き合いがされてきています。楽器演奏のボランティアの受け入れもあり、地域住民との交流は行なわれていますが、町内会との係わりは少なく、今後当ホームの理解の啓発に努めて、地域の行事や活動に参加し、地域の一員としての取り組みを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成した「利用者の経験、個性、思いを尊重した自立支援」という理念にもとづき、ケアサービスの提供に努力してきているが、地域密着型サービスとしての理念の構築には至っていない。	○	これまでの理念に加え、地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域の一員として交流を深める理念を掲げ、事業の方針に反映させる取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの要所に理念の掲示がされており、管理者と職員は、理念に結びついた日常ケアサービスの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方とはおすそ分けや、菜園の手伝い、地域の市場の人達とも気さくなお付き合いがあり、また楽器演奏のボランティア受入れなどを通しての交流に努めている。町内会には加入しているが、地域行事、活動などで人々との係わりは多くない。	○	近隣住民との交流は徐々に多くなってきている。今後、さらに町内会との関係性を深め、地域行事や活動などに参加し、地域の一員としての双方向の交流の機会に取り組んで欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義、目的を理解している。今回の自己評価に当たっては、ホームの現状に真摯に向き合っの振り返りを行なっているが、全職員での検討の時間的余裕がなく、管理者間での取り組みに留まっている。	○	評価は、全職員が一体となって前向きな取り組みが望まれる。今後、外部評価結果についても職員全員で検討、共有し、事業所の質の向上に活かして行くことを期待したい。

小樽市 グループホーム 朝里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、地域民生委員をメンバーに、3回の会議が開催されており、事業所の現状や地域での取り組みなどを報告し、意見交換が図られてきているが、ホームの運営に十分に活かすまでには至っていない。	○	さらに参加メンバー（包括支援センター職員、町内会長など）を拡大し、事業所の実践を伝えながら、地域の協力体制の依頼や評価報告をテーマに協議を行なって、多様な意見を頂だし、サービスの向上に活かす取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険などの事務的折衝時には、市担当者との話し合いを行ない、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態変化などの緊急時には速やかに電話連絡を取っている。家族の訪問は多く、利用者の暮らしぶりや健康状態など、口頭や家族ノートを利用し報告しているが、「ホーム便り」の発行や職員異動の報告は実施されていない。	○	利用者の日常の様子や状態変化時などについては丁寧な報告がされている。今後、行事や職員異動に関する報告などが掲載された便り、また利用者個別の手紙など、家族が知りたいと思われる情報提供の工夫に取り組んで欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約書などに内部及び外部の苦情相談窓口が明示され、玄関フロアに「意見箱」が設置されているが、現在までに苦情は出されていない。その時々家族の意見、要望、不安などにも留意し、日頃から率直な意見表出や話し易い雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員による支援体制に重要性を理解しており、若干の法人内の異動、離職はあるが、職員本人から利用者への説明を行ない、利用者への影響を最小限に抑えるシフト調整や対応の配慮を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成は、日常介護場面でのOJTを活かした学びを重ねてきている。グループホーム協議会での研修や母体法人での勉強会に参加しているが、全般的に外部の研修参加は少ない。	○	職員の経験、力量の段階に応じた外部の研修機会を確保し、研修後にミーティングなどでの報告、また、資料の回覧で、職員の力量育成の取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、ホーム運営についての情報交換が行なわれている。また、相互交流の機会として当ホームへの見学会が実施されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、職員が自宅を訪問したり、本人や家族にホームを見学してもらいながら、現在の暮らしぶりや思いを伺い、ホームに馴染めるよう配慮している。また、居宅の方にはケアマネージャー、入院中の方にはケースワーカーなどの関係者からも情報を聞き、入居後のケアに反映させている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にも掲げているように、職員は利用者の「経験」と「個性」を大切に思い、人生の先輩として様々な生活の場面で係わりをもち、職員も学ばせてもらっている。最近では、百人一首やことわざなどを、みんなで声をだして楽しまれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の入居前に訊いた「思いや希望」、また、入居後に生じたり変化する「思いや希望」を聞き取り、良く観察し理解できるように努めている。たとえば、利用者それぞれの「今年の抱負」をホールに掲げ、意向の把握に努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員には、担当の利用者が決まっており、その利用者の生活場面の状況チェック、できること・できないこと、思いや希望などのあらゆる情報をアセスメントし、可能なかぎり家族からの要望も訊きながら、職員全員でミーティングをしてケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりのケアプランや個別記録用紙は、カードックスで管理され、情報の共有に配慮されている。個別記録用紙には、毎日、ケアプラン全項目の実施チェックを○×で記入し、その内容も記載され、職員みんなが、ケアプラン実施に向けて取り組んでいる。ケアプラン見直し時には、実施状況、分析、評価、問題点を掘りさげて話し合い、新しいケアプランに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況により、通院送迎など必要に応じて柔軟に支援している。また、家族の宿泊できる多目的室も用意され、その状況、要望に応じての宿泊にも対応している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣に位置している母体病院が利用者の主治医であり、定期的な受診のほか、利用者の希望の複数の医療機関との関係も密に結んでいる。緊急時及び夜間においては、母体病院の医師や看護師の指示を仰いで適切な医療が受けられるような支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームでは、利用者の重度化に対応したケアサービスの提供に取り組んできているが、本人、家族、医療機関との対応の共有化がされており、利用者の状態変化時には、その都度繰り返し話し合いを行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関するの同意を得ており、記録などの管理に注意を払っている。職員の日々の接遇における何気ない言動には、温かな気遣いが見受けられ、利用者のプライド、プライバシーへの配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの個性の理解に努め、共同生活の中で、その人の今の思いや、本当の意思などを大切に、対話を交わしながら、居室で寛ぐ、お手伝いをする、入浴をするなど、できる限り本人の希望に添っての暮らしの支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にはそれぞれの役割があり、できることを行ないながら、下準備や下膳、茶碗拭きと職員とともにこなしている。菜園で収穫された野菜も食卓に登ることもあり、職員のさりげないサポートで楽しく穏やかな食事時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム内での毎日の入浴が可能であり、週に2～3回の入浴支援を行なっている。入浴拒否の人には、タイミングや言葉掛けの工夫を行なって、入浴を促している。入浴時間は利用者とのゆっくり話をする時間にもなり、清潔で気持ちの良い入浴支援を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	拭き掃除や家庭菜園、裁縫や壁飾り制作、カラオケや習字と利用者一人ひとりが好きなことや得意なことなど、それぞれの持てる力を発揮し、その人らしい張りや喜びが感じられる暮らしになるよう場面提供や工夫を踏んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	裏庭での野菜作りや収穫、散歩や買物、受診帰りには系列法人の高齢者アパートに立ち寄り、できるだけ本人の希望に応じた外出支援を行なっている。お花見や紅葉狩り、外食会もホーム全員での楽しみごとになっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を理解し、夜間を除いて玄関は施錠されていない。外出傾向の利用者もあり、玄関センサーや職員の見守りによる動向の把握を行なっている。時には帰宅願望の利用者とともに外出し、安全面での配慮をしながら、自由な暮らしを支えている。		

小樽市 グループホーム 朝里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による年に1度、消火訓練を実施している。避難誘導、緊急時連絡網の確認も行なっているが、災害時における地域の協力を得る働き掛けは行っていない。	○	様々な時間帯を想定しての災害対策の検討や、運営推進会議を利用し、地域の協力体制作りの取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分量を把握し、一人ひとりの状態や習慣に合わせた食事を提供している。法人病院の栄養士に毎食の栄養バランス、カロリーのチェックをしてもらい、献立作りに活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所を中心にした回廊型の共用部には、食欲を感じさせる調理の匂いが漂い、居間には皆で作った桜の壁飾りが施され、生活感や季節感のある家庭的な空間になっている。畳スペースや廊下には作り置き椅子が設置され、ホーム全体がゆったりとして明るく、衛生管理に行き届いた心地良い居場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は明るく清潔感がある。クローゼットや可動式の棚が設置され、スッキリと整理され、車椅子でも十分に動き回れるスペースが確保されている。利用者の馴染みの家具や生花、手製の人形などが持ち込まれ、個性的で居心地の良い空間になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。